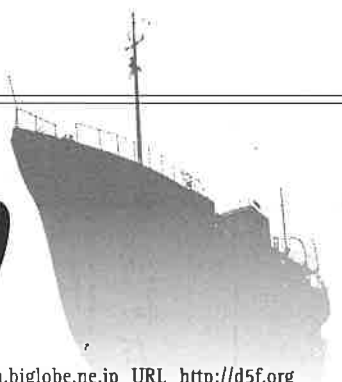


2004.10.01  
No.313

# 福竜丸だより



発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内  
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

子供のころ ニュースで知った

第五福竜丸のこと、久保山愛吉さん

死は 私の心に深く残りました

そのことが 原爆詩の朗読と

始めに きらびの 一つになつて、います

これまでも

核兵器のない地球を取り戻すための

ぬばり強く 頑張りたいと思ひます

吉永小百合

吉永小百合さん(女優)から展示館に寄せられたメッセージの色紙

## 手紙—託された心

特別展 久保山愛吉さんと家族に

寄せられた手紙より

会期九月二三日—十月一七日

ここに三〇〇〇通の手紙があります。小学校の作文用紙に書かれた手紙。細かい字でびっしりと書き込まれたハガキ、見事な筆使いでした。ためられたもの、少女雑誌の付録の便箋、お守り、絵日記、押し花、写真、そして小さな小さな折鶴が封筒に入っています。

これは、第五福竜丸の無線長だった久保山愛吉さんとその家族に寄せられた手紙です。

\*

一九五四年三月一日 漁船 第五福竜丸は、太平洋マージナル諸島ビキニ環礁で行なわれたアメリカの水爆実験により、「死の灰」をあびて被災しました。

新聞・ラジオは第五福竜丸と「ビキニ事件」について

連日報道し、三月二八日に乗組員が東京の病院へ移されると、地元静岡をはじめ各地からお見舞や激励の手紙が届けられるようになります。操機手だった池田正穂さんの手記には「学童たちからの心からほとばしる声を私達患者は回し読みしながら幾度泣かされたことでしょうか」、甲板員だった安藤三郎さんも「こんな私達を力づけてくれたのは各方面からの激励の慰問や児童たちの図画、習字、作文などだった」と書いています。

八月末、乗組員の中で最年長だった無線長の久保山愛吉さんの容態が悪化し、昏睡状態となりました。久保山愛吉さんや家族に宛てて見舞・激励の手紙が病院や焼津の自宅に数多く届きます。なかには

本号は特別展のための特別号です

(「めんからつづく」)  
主治医に宛てたものもありま  
す。

九月二三日午後六時五十分  
久保山さん死去のニュースが  
報じられると、家族や乗組員  
のもとへ激励やお悔やみと  
ともに、原水爆禁止、平和への  
誓いをしたためた手紙が多数  
寄せられました。

\*  
これらの手紙は、第五福竜  
丸保存運動の最中の一九七三  
年九月二三日、焼津市でお  
こなわれた久保山愛吉氏追悼  
会で久保山愛吉さんの妻すず  
さんより平和協会に寄贈され  
たものです。それは小学生か  
ら七〇〇通、中高生のもの  
が八〇〇通、大人からのものが  
約一五〇〇通あります。久保  
山さんの逝去により弔意を表  
す手紙も多数寄せられていま

す。手紙には海外から寄せら  
れたものもあります。その一  
部は『ビキニ水爆被災資料集』  
(平和協会編1976)に収録さ  
れています。

久保山さんが亡くなってか  
ら五〇年、今回展示された一  
〇〇通の手紙をとおして、全  
国にひろがり影響を及ぼした  
ビキニ水爆被災事件と手紙に  
託された人びとの心について  
想いを寄せていただきたいと  
思います。

展示にあたり焼津市歴史民  
俗資料館、飯塚利弘氏、内海  
愛子氏、田中熙巳氏、山谷賢  
量氏、第五福竜丸ボランティア  
アの会の協力を得ました。久  
保山さんと家族の書簡(複写)  
の展示については焼津市歴史  
民族資料館をつうじて久保山  
みや子さんのご了解をいただ  
きました。

## 焼津から

# 久保山さんたちへの手紙と 生活綴方のとおりくみ

飯塚利弘

私たち焼津「平和のための  
戦争展」実行委員会の手元

に、久保山すずさんがかつて  
大学生の研究のためにお貸し

した全国小中学生からの手紙  
の束がある。それは愛吉さん  
の危篤が報道された五四年九  
月二〇日から、翌五五年六月  
二〇日までの九ヶ月間にわた  
る五六通の手紙である。

一読して、どの手紙も久保  
山家のみなさんへの同情と連  
帯そして温かい励ましに溢れ  
ていることに心打たれる。し  
かもその言葉は、小中学生自  
らの生活から滲み出たものが  
多い。これらの手紙はビキニ  
被災五〇年の今も色褪せてい  
ない。それどころか今改めて  
読み直すことの意義と必要性  
を十二分に持っていると感じ  
る。

## 全国からの手紙と生活綴 方の教師たち

久保山さんの家族に寄せら  
れた手紙の多くは、学校で、  
学年で、学級で、生徒会で教  
師たちの指導を受けつつ書か  
れたものである。

「私は先生から水爆、原爆  
の恐ろしさを聞かされました。  
また広島島の被害者の写真  
を見たり映画なんか見て身ぶ  
るいするほど無惨なものでし

た」「先生が話しをしている  
間でも、自分も(死の)灰を  
かぶっているような感じがし  
ました」という手紙からも教師  
たちの熱心な指導ぶりがよく  
わかる。

高知県の佐川中学校生徒会  
の手紙はさらに鮮明に教師像  
を浮かび上がらせている。「私  
達の学校は、一〇月九日に  
各クラス自治会を開き議題と  
して久保山さんの死について  
どう思うか、ということ話を  
し合いました。議長である私  
は今日の議題「久保山さんの  
死について」はもつとも深い  
関係があり、これこそ真剣に  
考えるべきだと思い、又みん  
なも真剣に先生まで話相手と  
して意見を出して下さいまし  
た」「私たちはこういうこと  
について詩や作文を書き、先  
生に作文などを集めていると  
ころに送っていただくように  
しています」。

この文は、生徒達に生活(現  
実)を見つめ、みんなで討論  
し、作文や詩にまとめること  
を熱心に指導し実践している  
教師たちの存在を信頼をこめ  
て紹介している。  
それは、恐らく全国各地

の生活綴方をすすめる教師達  
が、ビキニ事件の人類史的意  
義を強く感じ取り、生徒達と  
ともに広島・長崎・ビキニを  
学び合い、みつめ合い、話し  
合い、手紙として書き合った  
のだと思う。

当時、第五福竜丸の母港で  
ある焼津港を学区に持つ焼津  
中学校に新卒教師として勤め  
ていた私は、職場の優れた  
先輩教師たちに誘われて志太  
生活教育同好会の一員になっ  
た。

「生活を見つめ生活を書か  
せよう」を合言葉に、月例会  
や夏の合宿所に実践や作品を  
持ち寄って、とことん話し合  
うサークルである。

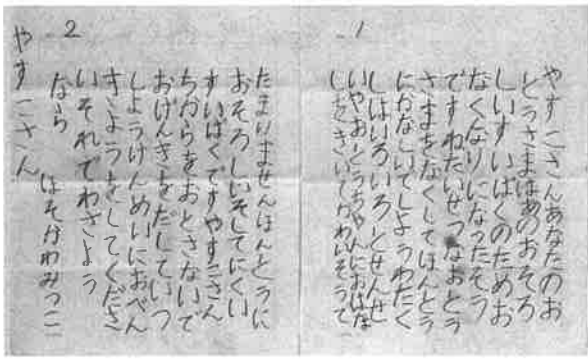
この同好会に集う教師たち  
も、ビキニ事件を子どもたち  
と共に考え、共に学び、書き  
合う実践に取り組んだ。職場  
の先輩教師である大塚義人、  
鈴木幹夫らはビキニ事件の特  
集した学級文集を発行。大場  
悦郎は教育記録『第五福竜丸  
事件と焼津の中学生たち』を  
教育誌に発表するとともに、  
生徒会を指導して入院中の乗  
組員たちへ全校生徒からの見  
(3めんへつづく)

(2めんからつづく)

舞文を送り、交流を始めた。

乗組員たちからの返事や礼状を「焼中新聞」で特集し地域に広げた。同好会員の鈴木博は、第五福竜丸乗組員のなかに小学校同級生がいたので、生徒たちと手紙を書き、彼らを励ました。生徒たちのなかにはその後ずっと彼らと文通しつづけたものもいる。

同好会員であり詩人でもある池谷秋雄は小学生たちに、身近にいる漁民たちが遭遇したこの事件の意味をわかりやすくお話しし、みんなで手紙



小学生からの手紙

を書いて送った。地元の小学生からの手紙は大歓迎された。先輩教師たちに学んで、私も生徒たちとともにこの事件を見つめ合い、考え合い書き合った。後にこれらを『私たちの記録集・特集 第五福竜丸事件と焼津の中学生』という冊子や『私たちの平和教育』という本にして発行した。

ビキニ事件当時、全国の生活綴方教師が果たした役割は大きい。これらはさらに調査・研究し、まとめて後世に伝えることが大事だと思っ

### ビキニ被災から50年

夫・愛吉の遺言「原水爆の被害者はわたしを最後に…」

を引き継いで三九年間核兵器廃絶を訴え続けてきた久保山すずさんが「今年、核兵器廃絶が早いかな、私が死ぬのが早いかな、競争しているような感じがします(中略)ヒバクシャとその遺族が生きているうちに一発残さず核兵器をなくしてください」というおこ

一〇年がたつ。

しかし、残念ながら久保山夫妻の遺言もおこつづても実現されていない。

いまこそ前述の生活綴方的なものの見方が必要なのではないか。生活現実・動きを広い視野でしっかりとみつめ、その奥の奥まで見通し、本質を掴みとろうとするとき、そこにビキニ事件は、五〇年前の出来事ではなく、核兵器という人類に向けられた最大の暴力による支配の思想が現在に引き継がれていることが見えてくるのではなからうか。そして民衆の中に核兵器廃絶への声と動きが確実に広がり、世界の主流となつていくことも…。だからこそ、ビキニ被災事件の原点に立ち戻り、見つめ直し、学び直すことがとても重要なことだと思っ

ている。第五福竜丸展示館が積極的にそうした試みに取り組んでいることの意味はまことに大きい。  
(焼津市在住、第五福竜丸平和協会評議員)



## 被爆者として 久保山さんの死に憤り

田中 熙 巳

歳代の、若さいっぱいの彼らとの生協運動についての熱のこもった議論や仕事のこと、学外の住宅を回って集めたさまざまな署名活動のこと、浅間基地反対運動、帰郷運動、学園復興運動などで全国の学生運動のリーダーとして熱気に沸いていた東大教養学部

第五福竜丸平和協会から電話を頂き、久保山さんの遺族から預かった、全国から寄せられた、久保山さんを励ます手紙や、遺族へのお悔やみや励ましの手紙などの中に、私が署名している寄せ書きがあることを知らされました。

この頃の学生運動のスローガンは労働者、農民とともにたたかおうというもので、生協従業員と教養学部学生がさまざまな運動で連帯して取り組みました。

五〇年前に書いたその寄せ書きのことも、何を書いたかもすっかり忘れてしまっていました。

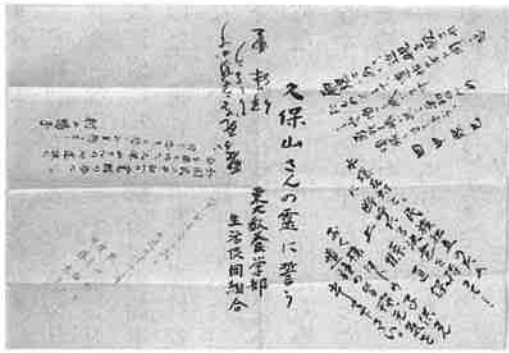
私は、二年後の一九五六年に大学に進学することになった職場を離れましたが、そのときの仲間の多くは、その後、日本の生活協同組合運動で重要な役割を果たしました。私にとつては、思い出多い青春のひとときで、その後の生き方を決定づけたところでもありました。

その寄せ書きは、私が働いていた、東京大学消費生活協同組合(東大生協)駒場支部の従業員仲間のほぼ全員(二六名)が書いたものでした。

その寄せ書きに、私は「原爆に会い、近親を殺されたものとして、遺族の方と同じ悲

五枚におよぶ紙に書かれた名前を見て、ほとんどが二〇

その寄せ書きに、私は「原爆に会い、近親を殺されたものとして、遺族の方と同じ悲



田中さんの寄せ書き

(3めんからつつく)

しみと憤りを感じます。勇気を振るい興し平和のためにがんばりましょう」と書いていました。中学一年生のとき長崎で原爆を体験し、五人の身内の命を奪われていました。が、原爆にあったことを口にしたことはほとんどありませんでした。被爆者に対する誤解と偏見があり、奇跡的とはいえ怪我一つしなかった私が被爆者を名乗ることの後ろめたさもあつたからかもしれません。寄せ書きに原爆にあつたことを書いたのは、久保山さんの放射線による犠牲に強い衝撃を受けてのことだった

のでしよう。

高校を卒業し、仕事を探して上京した一九五二年は、七年間にわたるアメリカによる占領から開放されたばかりのときでした。アメリカとの単独講和の是非をめぐる世論が沸騰し、全面講和を求める声押し切つてのサンフランシスコ条約による占領政策からの独立でした。独立からさかのぼる二年前の一九五〇年には、アメリカの水爆製造開始に危機感を抱いた世界の平和勢力が呼びかけたストックホルム・アピールへの賛同署名が占領下の日本でも取り組まれ、呼びかけ直後の六月に朝鮮戦争が始まったこともあつて、急速に広がり、八月には一三〇万筆、一年後の三月には六四〇万に達していました。原水爆禁止、平和に対する願いは国中に満ち溢れていました。

しかし、占領軍による隠蔽政策と独立後の政府の無策もあつて、広島や長崎に原爆が投下され、街が壊滅し、数十万の市民の命が奪われた惨状や、かろうじて生き延びた被爆者たちが、全国各地で病

や差別に耐えながら、孤独に生きるたたいを送っていたことは、ほとんど国民に知られていませんでした。原爆の惨状の写真が全国に初めて公開されたのは、日本が独立した一九五二年の八月六日号のアサヒグラフだったのでないでしょうか。国民の多くはこのとき初めて、広島、長崎の惨禍を目にすることになるのですが、生き残った被爆者の苦しみに思いが及ぶことは

## 五〇年目の手紙

内海 愛子

五〇年前に書いた手紙を前に、あの第五福竜丸の事件とその時代に思いをめぐらせている。五〇年の歳月——今、日本は戦後史の転換点に立っている、そんな実感をかみしめながら——。

第五福竜丸の事件は、原爆の記憶と重なっていた。あの頃、長田新編の『原爆の子——広島少年少女のうたえ』を読んで、被爆した広島一中の生徒の手記に打ちのめ

あまりありませんでした。第五福竜丸や多くのマグロの被曝、久保山さんの死がきっかけとなって、燎原の火のように広がっていった原水爆禁止運動の中で始めて、原爆の被爆者への関心と同情が高まっていたのでした。

第五福竜丸の被曝がなければ被爆者はどうなっていただろうと思うことがあります。(日本被団協事務局長)

されていた。「原爆の子」の映画だったように記憶しているが、原爆投下までの柱時計がカチカチ鳴る場面も印象に残っている。

原爆の問題を自分たちの問題として考えはじめていた頃に、ピキニの水爆実験があつた。「死の灰」は、私と同時代の子どもたちには、世の中の問題に眼をひらかせる事件だった。

こうした時代の背景もあつ

て、多くの生徒が久保山愛吉さんのことを、原爆と重ねて考え、心配していた。手紙は、緊張してか、ぎこちない気どつた文章になつていますが、私は怒っていたように思う。「何で——、何で今また被爆なのかと」。

この手紙を書いたのが中学一年、小学校六年の夏休みの宿題で「集録ノート」をつけていた。毎日、新聞を読んでどれか一つ記事を選び、要点をまとめ、感想を書くという宿題だった。新聞を読んで大学ノートに記事を書き写し、感想を書いていた。

中学に入っても、それを続けていたように思う。そして、新聞を読んでもいつも腹を立てていた。ニュースを聞いては怒っていた。何に怒っていたのか、具体的な事件は思い出せないが、いつも社会に怒っていた。こんなおかしな世の中を変えたい、漠然とそう思いつめていた。久保山さんの被曝は、そんな私の怒りの感情に火をつけた。

私ひとりではなかったのだらう、そうした生徒の想いを

(5めんへつつく)

(4めんからつつく)  
受けとめた先生が、久保山さんに励ましの手紙を出そうと提案されたのだと思う。女子ばかりの学校に多彩な社会科の先生がいた、国語の先生も多彩な先生方だった。どの先生がこの手紙を出されたのか、私の記憶はさだかではないが、いろいろな先生方の顔が浮かぶ。

一九五四年はまだ、社会が混沌とした。目の前の日本電氣(現在のNEC)もあの頃ストをやっていた。東京女子中学校には、そうした社会のことをどう考えるのか、教



小学生からの手紙

えてくれた先生方がいた。腹を立ててばかりいた私は、その中ですこしづつ考えはじめたのだろう、精一杯、よそ行きの言葉を使って書いた手紙だが、一番に言いたかったのは「久保山さん、死なないで——」の一言だったと思う。そして久保山さんを殺したモ

## 第五福竜丸は 道民の心も揺さぶった

山谷賢量

ノへの怒り——そこに目が向いていった。

あれから五〇年、自分は何をしてきたのだろう。あの頃の怒りと行動——その心はどこへいったのか、手紙を前にもう一度自分を問い返してみたい。(恵泉女学園大学教授)

九月上旬、日本海を北上した台風一八号は北海道民には五〇年前の悪夢を思い起こさせるものだった。一九五四年九月二六日、北海道を襲った台風で青函連絡船「洞爺丸」が沈没し一一五五人が死亡した。久保山愛吉さんが亡くなった三日後のことだ。一八号は北上したコースも強い吹き返しを伴ったことでも洞爺丸台風とそっくりだった。

その洞爺丸に積まれていた一通の手紙が第五福竜丸展示館に眠っていた。函館市の「孤独な少女」(一六歳)が愛吉

のはがきもあつた。函館を船籍とする二隻が被ばく漁船だったこともこの春になって明らかになっている。

第五福竜丸の被ばくは北海道には縁遠い話だとされてきた。展示館に眠っていた手紙はそうした俗説を覆すものだ。それどころか、福竜丸の悲劇と北海道は何か目に見えない縁でつながれているようにすら思える。

どうして、これほどたくさんの手紙が北海道から寄せられたのだろうか。

日本人が初めて水爆の犠牲者になった衝撃波が、大きなうねりとなって道民の琴線を揺さぶったのは想像に難くない。日高管内の浦河第一中学の児童は学級あげてお見舞いの手紙を送った。担任は児童たちから話が持ち出されたことを明らかにした上で「久保山さんは決して他人ではない。(早期回復を願うのは)日本中のだれもの気持ちでしょう」と書いた。大人だけではない。北海道の片田舎の子どもの口にも上った出来事だった。

報道が手厚かったのも確かだ。愛吉さんが重体に陥ったのは八月末、九月四日には一時回復の兆しを見せた。この間の北海道新聞をマイクログラムで見ると一週間、朝夕刊ぶっ続けて克明に病状を報じている。記事は大小合わせ三〇本を超えている。

もともと北海道は革新的気風が強い土地柄だ。当初、責任を認めなかった米国に対する憤りもあつたらう。これと報道があいまって道民の心を揺り動かしたのであろう。

九・一一テロ後、米国のブッシュ政権はテロには先制攻撃で対処しようとしている。

それに連れて、核兵器の廃絶を求める声は国際的にもか細くなりつつあるように見える。

洞爺丸台風の暴風雨に耐え忍んだ「孤独な少女」の手紙を含む四八通は原水爆の禁止を求める日本人の願いは一つ、地域による違いはなかったことを物語っている。

愛吉さんの悲痛な訴えが実る日までその灯を消してはならない。半世紀前の志を引き継いで行きたい。(北海道新聞記者)

## 共感と願いと 清瀬・療養所の時代から

山村茂雄

国立療養所清瀬病院で療養中の患者からの「寄せ書き」に、私の知る多くの療友の名前が記されているのを見出し、驚きとともに、感慨深いものがありました。

当時、結核は回復がむずかしく長期の療養を必要としました。私も二〇歳代の五年間を清瀬で過ごしました。

「私たちは新聞ラジオで報ぜられる久保山さんの命のほのかなゆらぎについて、自分自身を見守るような気持ちで生きています。——私たちの病棟の患者三〇名で、米国・ソ連・英国・カナダ等に「水

爆禁止」の要請文を出し、英国・国連・カナダ等からは「禁止に協力する」という手紙をもらいました。残念ながら、一番大事なアメリカからは「やめない」というつれない返事でした。——日本人は平和をのぞみます。そして日本人はその具体的な証として、あなたがたの存在を忘れないでしよう」。

筆太の筆跡で寄せ書きをしている「たなか・しょうたろう」は、清瀬病院療養者サークル『魚紋』詩話会や、創作グループ「プルス」のリーダーでした。寄せ書きが触れる米国などへの要請のくだりは、『ビキニ水爆被災資料集』（第五福竜丸平和協会編・1976刊）の「国内外から寄せられた手紙」の中に（療養所患者・男）と紹介されています。

『資料集』に（療養所患者・女）と載る「輪の中で／＼福竜丸の家族に捧ぐ」は、『魚紋』詩話会のメンバー名嘉真光子さん（当時二二歳）の詩です。名嘉真光子は、一九五六年一月に亡くなります。『魚紋』五一号は名嘉真光子追悼号として編集され、「輪の中」の

詩も収録されます。「——原・水爆禁止署名やその他の署名も、あの瘦せた手にしつかりとペンをにぎり、一字一字心をこめて書いていた姿は私の心に焼き付いています」。今回展示の清瀬病院からの寄せ書きに名嘉真さんの詩を代筆した川崎君江さんの追悼文の一節です。

田中さんは退院後、ユーモア作風の『一四ひきともう一ぴきの猫』（講談社文庫）などの著作を遺しました。

『ビキニ水爆被災資料集』第三編の俳句・世相の欄の執筆で協力してくれた谷敬さんも『魚紋』中心メンバー、「現代詩」一九五九年新人賞当選の詩人でした。その谷敬も田中祥太郎も星の彼方、彼岸の人になりました。今、「遺稿」とも言える祥太郎の文章、名嘉真光子の詩を読む——青春の思い迫る感慨があります。その他多くの「手紙」を読むことにもまた——。

それぞれの手紙が、五〇年の時の経過を越えて、惻々と語りかけるものは、「手紙」や「寄せ書き」に託す当時の思

いが、いまに共通した願いとして読み取れるからです。

ビキニ事件を契機に広がる原水爆禁止署名運動、世論の結実、原水爆禁止世界大会の開催へ——「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ」が導く現代

に生きる人間のありようの心底を射当てるように、「手紙」や「寄せ書き」に託された心は共感を育て今日に生きつづけているのです。（第五福竜丸平和協会理事）

### 第五福竜丸を支えてください 賛助会員のお願い

日頃から第五福竜丸展示館、平和協会にご理解をお寄せくださる皆さん。核兵器も戦争もない平和な港へむけて、第五福竜丸と一緒に航海しませんか。「第五福竜丸を知らない世代に伝えたい」をキーワードにボランティアのガイド活動をはじめさまざまなとりくみ企画展にお力添えください。

\* 賛助会員は財政面、活動面で平和協会を支えていただくものです。ニュースの送付、催し物のご案内、刊行物などをお送りします。会費年5000円。

お申込みは、FAX 03-3521-2900  
メール fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp にてお願いします。

## 座談会

## 「託された心」に触れて

中橋章子 大幡嘉子 市田真理

(第五福竜丸ボランティアの会)

作業開始からのあゆみ

市田(以下I) 手紙の整理を始めて足掛け三年。まさかこんなに時間がかかると思っていませんでした。

大幡(以下O) 想像以上の量だったから。

I スイマセン見通しが甘くて。一応この作業の「言い出しっぱなし」ということで、この間の経緯を若干説明させていただきます。

一九七三年に久保山家から寄贈されたあと、『ビキニ水爆被災資料集』を編集する際に一度整理が行われ、その後も前の事務局が八〇年代に収蔵リストを作るときに整理をしたという経緯があります。ただ、それらは点数の確認が中心だったようで封筒がざつくりと束ねられたまま箱詰めされていていました。あと、これは後日判明したことです。別な倉庫にも三〇〇通余りが保管されていて、やっぱり一通ず

つ再点検しようと袋に入れ直し、整理カードに記入してデータを取るとというのが、今日までの作業だったわけです。

大幡さんと中橋さんを中心に進めてきましたので、今日は作業を通して感じたことなどお聞かせください。

中橋(以下N) 機械的に書き込むというより、じっくり読んでやらないとカードに取れない、というのがポイントですね。

I 昨年からは、クラス単位で束ねてあるものや、寄せ書きなどは、「まとめて一点」ではなくて「差出人一人で一点」というふうな作業のしかたを変えたんですよね。

N それでまた、どつと増えました。でもそのぶん一人ひとりの書いた言葉と向き合っただけで作業することができたようですよ。

I はい、そう思います。カードからパソコンに入力して

いるのですが、「〇〇さんほか四八通」だったのが、四人全部の名前を並べてみると、なんだかすごく感動しちゃうんですよ。学級委員長がまとめたのかなあ、担任の先生がよびかけたのかなあとか想像してしまつて。

N 担任の苦悩も見えてくるわよね。教員をめぐってはいろいろあった時代。この年、教員の政治活動と政治教育を禁止する「教育二法」が成立し、ひじょうに緊張感のある頃でした。

I 中橋さんは北海道、大幡さんは東京のご出身ですね。まずは、おふたりが「ビキニ事件」当時、どのように過ごされていたかを教えてください。

一九五四年のこと

O 私はみや子さん(久保山愛吉さんの長女)と同世代です。子ども心にほんやりと居間でちゃぶ台を囲んで家族でラジオを聞いた記憶があるくらい。久保山さん、という名前は記憶しているもので、やっぱり頻りに耳にしましたね。毎日「久保山さんの体温は、血圧は、脈拍は・・・」って

七時のニュースでやってた。

N 私は当時、新聞もラジオもない生活だったので、事件のことは全然知りませんでした。むしろ久保山さんが亡くなった三日後の洞爺丸台風と岩内町の大火の方が身近でした。たくさんの方が亡くなった、ということでは大事件でした。

I 沈没した洞爺丸に積まれていた手紙がありますよね。(詳細は山谷氏の項参照)

N あれをみつけたときにはハッと胸がいっぱいになつちやたわ。

I 一ヶ月以上かかって久保山家にたどりついた手紙です。

N その一六歳の子、お金を同封してるんです。どんな環境かわからないけれど、こう大変だったと思うのよ。戦後九年で、貧しさもじさからホッとひと息つけるかどうかの時代。全体的にみても十代の女の子たちが「自分の気持ち」を切々と書いてるのは特長的ですね。一五〜一八歳の女の子で、差出人のところ

に「ナニナニ様方」ってなっているのがけっこうあるのも気になりました。おそらく住み込みでのお手伝いなんかじゃないでしょうか。

I 時代を感じさせるものとしては「私も戦争でお父さんを亡くしました」という手紙がずいぶんありますよね。

O 多いですね。第五福竜丸の乗組員は「見知らぬ人」なんだけど、すごく共感しているのが読み取れます。そういう時代背景もあるのだと思う。

子どもたちの手紙

O 小学校高学年の子たちも、しつかりした言葉遣いでおとなに対して手紙を書いている、ということがスゴイ。ちょっと背伸びした感じや、くずし字で書く感性に「自分も一人前」という自負がみえます。

N 久保山さんが亡くなったニュースを聞いて、姉妹で泣きながら相談して書いた手紙があつてね、その風景を想像するとね。

O 家族というのが生活の中心で、社会的なできごとを家族で話し合ってる、というのがわかりますね。

I 男の子の手紙に多いようなんですが、戦争反対とか水爆反対という強い意思が書かれていますよね。勢い余って「アメリカをやっつけてやりま(8めんにつづく)



(7めんからつつく)

「す」とかいう、ちよつと戦争中の言葉遣いをひきずったのもあるけど。

N やっぱりね、こうした事件が自分達の生きる基盤に直接影響しているということ

を、敏感に感じているということなんじゃないかしらね

手紙の書かれた時代

I 時代ということ、ちよつと整理してみたんですが、戦後のインフレがややおさま

って総体的には安定し始めますが、前年の一九五三年は

風水害で稲作が壊滅的だった

り、政情不安や事件や事故の多発で自殺者がすごく多いん

です。五四年から翌年にかけて、戦後最初のピークがきて

る。そんな絶望的な雰囲気の中

なかで、見知らぬ他人の痛み

に寄り添う、つてちよつと不思議な感じもするのですが

N 身につまされる部分があるからじゃないかしらね。戦

争を体験した人たちがつらさ、貧しさを含めて、身にし

みる世代が多かった。  
O 自分の身内同然って感じよ

N 地元で採れた貝を送りま

すとか。  
O ミミズがいいとか、甘草

が黄疽に効くとか。  
N 全快祝いの赤飯用に小豆

を送りました、なんてのもあり

りました。  
I 社会的に弱い立場の方

らの手紙も多いですね。  
N 結核療養所からの手紙も

多いです。  
O 自分も具合が悪いのに、

心底心配しているのよね。  
I 前年から始まった中国や

旧ソ連からの「引き揚げ」に

関連して、帰国船「興安丸」

に乗っている人たちからのもの

ありましたね。あといわゆる

「BC級戦犯」で巣鴨プリズン

の中からの手紙も。  
平和の願い

I 子どもの手紙に、原爆の

映画を観ました、というのが

何通かあって、おそらく新藤

の姿勢が見えてくる。

I はい 県別でも静岡、

高知がケタちがいに多いんで

す、その大半がクラスや学校

でまとめて送ったものです。

文集のように綴じたものもあ

るし学校の名前が入った作文

用紙も多いです。  
O いっぱうで少女雑誌の付

録の便箋や封筒もけっこうあ

ってね。  
I 時代の肌触りみたいなもの

を感じますよね。  
N 原爆被害については、よ

うやく全国的にも知られるよ

うになった頃です。  
I 一九五二年のサンフラン

シスコ講和条約発効でプレス

コードが解除になり、「アサヒ

グラフ」が原爆特集をやるん

です。映画が作られるのもそ

ありましたよね。

O この年の七月に、自衛隊

が発足するんです。  
N 五〇年代というのは朝鮮

戦争や再軍備の動きがあり、

世の中が激しく揺れ動こうと

していた。だからこそ平和を

願う気持ちがいっそう強くな

っていったのでしょね。  
I そういうことも今回の展

示では伝えたいですね。  
O 不特定多数の他人の目に

触れることを前提にしていな

い手紙を第三者が自分の体と

感性というフィルターを通し

て伝えるのがいいと思います。  
N そうですね。私たち自身

の思いもこめてね。  
I まだまだ作業はつづきま

すが、これからもよろしくお

願いします。  
(注) 占領軍はプレスコードを

しいて原爆被害について報道・

出版を統制した。  
\*

作業スタッフ 青木佳子 遠

藤昌樹 大幡嘉子 岡本英明

中橋章子 真野節子 三好富

美江 吉村道興  
文責 市田真理 (学芸員)



ビキニ水爆実験被災 50 周年記念出版  
初めての図録 = 写真でたどる第五福竜丸

編集・発行 = 財団法人第五福竜丸平和協会 発売 = 平和のアトリエ

内容 = 刊行にあたって、都挨拶、グラビア・第五福竜丸、水爆実験との遭遇、乗組員のその後と久保山さんの死、「原子マグロ」と国民生活、ビキニの海へー俊鷗丸の海洋放射能調査、漁船第五福竜丸、原水爆反対の声おこる、乗組員へのお見舞いの手紙、漁業補償と事件の「決着」、マーシャル諸島の核被害、第五福竜丸の保存と展示館の建設ほか。  
解説 = 水爆実験と日本の科学者、第五福竜丸の現在一日本経済への影響、マーシャル諸島の核被害者ほか  
展示館特別価格 2000 円 (送料ふくむ) A 4 版、104 ページ